

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

子どもの教育や保育において、子どもの発達過程や発達課題を理解したうえで、子どもの発達を支援する意義と方法を学ぶ。公認心理師、臨床心理士として病院や保健相談所における発達・心理相談の実務経験を活かして、保育現場で生じやすいケースを想定しながら講義する。子どもの発達や学び、その過程で生じるつまづき、その要因を把握するための方法を学び、発達支援における保育と関わり方について考察する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについて）、子どもの発達理解と援助の意義
第 2 回	子どもの実態をとらえる意義と共感的理解
第 3 回	子どもの発達・学習の理論と環境
第 4 回	子どもの発達過程：身体機能・社会情動・認知・言語
第 5 回	子どもの学びと保育
第 6 回	子どもを理解する視点：生活・遊び・集団
第 7 回	子どもを理解する方法：観察・記録・省察・評価
第 8 回	子どもの精神保健とその課題
第 9 回	発達の課題に応じた援助と関わり
第 10 回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第 11 回	発達の連続性と就学への支援
第 12 回	子どもの生活・生育環境を捉える視点と援助
第 13 回	家族・家庭の理解と子育て支援
第 14 回	子どもを取り巻く環境の現状と課題
第 15 回	生涯発達の視点で捉えた発達理解と援助
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・子どもの発達過程を理解し、発達の課題に応じた援助の意義と方法を理解する。
- ・子どもと保護者への受容と共感の意義を理解した援助の姿勢を身につける。
- ・子どもの実態をとらえる視点を持ち、発達を支える保育と関わり方について考えることができる。
- ・子どもと子育て家庭に関する現状と課題を理解する。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、ワークやロールプレイ、グループディスカッション等を用いて進めていくので、積極的に参加すること。

予習・復習

あらかじめ配布された資料には目を通しておくこと。次回授業のキーワードについて調べて理解しておく。授業後には、配布資料を基に授業内容を復習し、参考文献も用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）、期末試験（60%）によって行う。授業での取り組みについては、授業で課すレポートなどの評価・提出状況、および授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。授業において配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。